

7/1

2009 No.247

特別定価 600 yen

# pen

with New Attitude

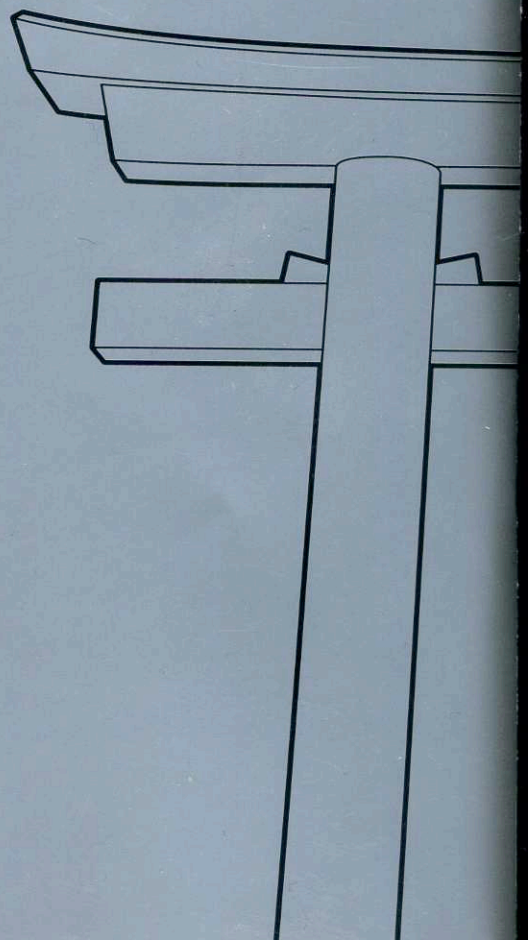


## 神社とは何か? お寺とは何か?

完全保存版

日本文化の源流を訪ねて

ミラノ・サローネ速報  
今年の10大ニュース  
エリオット・アーウィット撮り下ろし  
海辺のデニム・スタイル



# デザインは 楽しい。

文・土田貴宏

「会社の問題を、オフィスのデザインがすべて解決してくれたりはしません。しかしデザインには、オフィスで働く人を元気にする力があります」

建築家のマーティン・ヴァン・ダー・リンデンさんが提唱する「ワークビタミン」という考え方のベースには、そんな認識がある。働く人を活性化すれば、企業の潜在力を引き出し、外部の人々を惹きつけ、業績をアップさせることにつながる。職場のインテリアデザインが、一種のブランドディングとして機能し始めるのだ。

では、ワークビタミンに則ったオフィスとはいったいどんな空間なのか。  
「好き」「嫌い」がはっきり、  
そんな空間をあえて作る。

財務アドバイザー・カンパニーの、「アインストアンドヤング・トランザクション・アドバイザー・サービス」(以下、アインストアンドヤング)の東京のオフィスは、リンデンさんの代表作だ。ひとつずつ異なる趣向を凝らした会議室は、素材のコントラストが強調され、曲線を印象的に使った部

22

「ワークビタミン」とオフィスデザイン Office Design in way of "Workvitamins"  
マーティン・ヴァン・ダー・リンデン

## 働く人たちも会社も元気になる、 ビタミンのようなデザイン



殿村誠士・写真  
photographs by Seiji Tonomura

アートや、アートに近い存在感をもつ家具もミックスした。

「普通、オフィスは大多数の人が不快に感じないデザインに収束していきま  
す。でも一人ひとりが『好き』『嫌い』  
をはっきり感じられる空間のほうが、  
ずっと人間的なのです」

アーンストアンドヤングの社員に  
尋ねると「この部屋が好き」「あの部  
屋は嫌い」という意見が人によって大  
きく異なるという。嫌いという意見  
があつても構わない。それも空間が感  
性を刺激している証しだからだ。

一方、彼が挙げる、オフィスに不要  
なもの。それはヒエラルキーとプライバシ  
ー。上司への尊敬は大切だが、空間で  
表現する必要はない。また仕事のため  
に優先されるのは、個人のプライバシ  
ーよりもコミュニケーションだ。

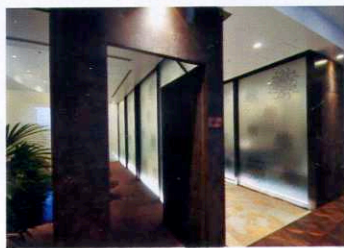
理想のオフィスといえば、自宅のよ  
うにリラククスできる心地よい空間  
を思い浮かべる人も多いだろう。だが  
リンデンさんは「日本人は雰囲気很重  
視しすぎだ」と指摘する。ワークビタ  
ミンは、もっと論理的で戦略的なデザ  
イン手法だ。そのプロセスは、経営者  
のビジョンを知り、企業に求められる  
ものを分析するのが出発点だという。

「ただデザインを提供するのではなく、  
オフィスを作るプロジェクト全体を任  
せられるのが理想です。予算も自分た  
ちで管理することで、より大胆なアイ  
デアが実現できますから」

もちろん刺激的なオフィスでも、や  
がて働く人は慣れていく。それはワー  
クビタミンが人の中に取り込まれた結  
果だという。こんなオフィスが増えれ  
ば、やがて世の中そのものが劇的に  
活性化していくはずだ。



ともにアーンストアンドヤング。上：社員が寛ぐための  
スペースは、椅子が赤で揃えられていて明るい雰囲気。  
下：円柱形の会議室。10室の会議室はすべて異なる。



アイエヌジーバンク東京支店で  
は、鏡のような質感で日本を表現。



アーンストアンドヤングの会議  
室(右)と、廊下の中央に設けら  
れた打ち合わせスペース(左)。  
黒と白を多用したのは、人の存  
在感を際立たせるため。



マーティン・ヴァン・  
ダー・リンデン

Martin van der Linden

●1966年オランダ生まれ。  
日本やイギリスで建築を学  
ぶ。92年から原広司+アト  
リエファイ建築研究所に在  
籍。99年ヴァン・ダー・ア  
ーキテクトを設立。オフィ  
スを主に手がける。www.  
vanderarchitects.com